

## DR コンゴ

## 主要データ

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 国名〔英名〕                       | コンゴ民主共和国 (Democratic Republic of the Congo)   |
| 面積 (km <sup>2</sup> )        | 2,344,858   |
| 海岸線延長 (km)                   | 37  |
| 人口 (百万人)                     | 108.4   |
| 人口密度 (人/km <sup>2</sup> )    | 46.2  |
| GDP (bUS\$)                  | 53.96   |
| 一人当り GDP (US\$)              | 497.74  |
| 主要鉱産物：鉱石                     | 銅、コバルト、タンタル、錫   |
| 主要鉱産物：地金                     | 銅   |
| 鉱業管轄官庁                       | 鉱山省   |
| 鉱業関連政府機関                     | 鉱業登録所 (Mining Registry)   |
| 鉱業法                          | 鉱業法 (Mining Code (2018年3月改正))   |
| ロイヤルティ                       | 3.5% (非鉄金属、貴金属)、1.0% (鉄鉱石)、   |
| 外資法                          | 10.0% (戦略鉱物; コバルト、ガリウム、タンタル)  |
| 環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等) | 投資法 (Investment Code (2002))  |
| 鉱業公社                         | 鉱業権申請時の環境影響評価、環境管理計画の実施・策定義務あり。   |
| 鉱業活動中の民間企業                   | Gecamines、Sodimico  |
| 鉱業活動中の民間企業                   | Glencore、Eurasian Resources Group (ERG)、MMG Limited、China Molybdenum、Zijin Mining Group、CNMC、Ivanhoe Mines、Zhejiang Huayou Cobalt 等 |

## 1. 鉱業一般のトピックス

コンゴ民主共和国 (以下「DR コンゴ」) の実質 GDP 成長率は、コロナ禍の影響によって急速に減速した 2020 年のプラス 1.7% から、2021 年はプラス 6.2% と回復した<sup>1</sup>。2021 年の経済成長率は、2020 年 (6.9%) からの強い勢いを維持し、6.2% となった。経済活動をけん引するのは鉱業部門で、鉱物価格の改善や公共投資の増加に支えられ引き続き成長の主要な原動力となっている<sup>2</sup>。

鉱業が GDP に占める割合は 30.0%、輸出総額に占める割合は 98.9% を占めている (2020 年暫定値)。特に銅とコバルトが主要鉱産物であり、輸出総額に対して銅は 68.3%、コバルトは 16.3% であった (2020 年暫定値)<sup>3</sup>。

## (1) 銅・コバルト

銅鉱石生産量は、2021 年には銅量 1.8 百万 t を越え、中国と並び世界第 3 位の銅生産国に位置付けられている<sup>4</sup>。ここ十数年の間に急速に銅生産量を増やしたが、その年産銅量の半分以上は中国企業による。主要な中国企業による事業としては、CMOC Group (2022 年 6 月 30 日に China Molybdenum 社から英語名を変更) の Tenke Fungurume 銅・コバルト鉱山、MMG 社の Kinsevere 銅鉱山、中国企業コンソーシアムと国有企業 Gecamines による JV 事業 Sicominer などがある。中国企業以外では、加 Ivanhoe

<sup>1</sup> IMF World Economic Outlook Database

<sup>2</sup> The World Bank in DRC, Overview

<sup>3</sup> Banque Centrale du Congo, Rapport Annuel 2020

<sup>4</sup> USGS, Mineral Commodity Summaries 2022

Mines 社がオペレーターとなる Kamo-Kakula 銅鉱山があり、2021 年 5 月よりフェーズ 1 の生産を開始し同年 7 月にはフェーズ 1 のフル操業に移行した。銅生産量は、2021 年 105.8 千 t、2022 年 333.5 千 t に達し、段階的に生産量を上げており、最終的には銅量 800 千 t/年と、世界第 2 の生産量の鉱山になる計画である。同国では、従前から酸化鉱が主に採掘され、山元にて SxW による湿式製錬でカソードにして輸出されてきたが、2020 年に操業を開始した Lualaba 製錬所（生産能力銅アノード 120 千 t/年）は、DR コンゴにとって初の大規模乾式製錬所の導入になる。その他にも、Glencore やカザフスタンの ERG 社による銅生産も多くある。Glencore は、Kamoto 銅・コバルト鉱山と Mutanda 銅・コバルト鉱山を操業しており、2019 年 12 月より保守管理に入っていた Mutanda 銅・コバルト鉱山は 2021 年 12 月四半期より操業を再開した。ERG 社は、2019 年よりテーリングからの銅・コバルト回収プロジェクトである Metalkol RTR の生産を開始している。

コバルトについては、DR コンゴが世界第 1 位の生産国であり、2021 年は世界生産量の約 7 割に相当する 120 千 t を生産した<sup>4</sup>。コバルトは大規模銅鉱床の副産物として生産されることが多いが、DR コンゴでは零細採掘（Artisanal）による生産も相当量あり、同国での生産の 1~2 割程度を占めている。これらは、中国企業が買取り中国に輸出されるケースが多い。

## (2) 錫・タンタル等

鉱山省の統計によると、2018 年以前の錫やタンタル、タングステンの生産は全てが零細採掘に由来していた。2019 年に、加・南ア Alphamin Resources 社が Bisie 鉱山（DR コンゴ東部 North Kivu 州）にて錫・タンタルの生産を開始し、統計に産業鉱山からの生産が計上されるようになった。開発中案件としては、豪 AVZ Minerals 社が進める Manono リチウム・錫鉱床開発プロジェクトがある。

## 2. 鉱業政策のトピックス

### (1) 米、DR コンゴ及びザンビアが EV 向けバッテリーバリューチェーン強化の MOU を締結

ザンビアと DR コンゴは 2022 年 4 月 29 日、電池産業とクリーンエネルギー分野のバリューチェーン確立に関する二国間協力協定に調印した。ザンビアの Hichilema 大統領と DR コンゴの Tshisekedi 大統領は、包括的な成長と持続可能な開発を促進する競争力のある EV 用バッテリーのバリューチェーンを開発することを目標に、ザンビア-DR コンゴバッテリー前駆体イニシアティブを共同で開始することを決定した。

また 2022 年 12 月の米アフリカ首脳会議において米国は、電気自動車（EV）用バッテリーバリューチェーンを強化するため、DR コンゴ及びザンビアと MOU を締結した。本 MOU は DR コンゴとザンビアによる EV 向けバッテリーサプライチェーンの共同開発を支援するもので、上流から下流までの生産性の高いサプライチェーン構築という DR コンゴとザンビアの目標に対する支援、及び本プロセスを通じ汚職の防止・検出、汚職に対し法的措置を取るための国際基準の尊重が盛り込まれている。

### (2) 中国企業グループとの鉱業契約見直しについて言及

DR コンゴは、10 年以上前に中国と締結した鉱業取引の見直しを求めており、インフラプロジェクトへの充当が約束された資金を全て確保すること、及び超過利潤の分配を受けることを視野に入れている。Jean-Michel Sama Lukonde 首相は 2022 年 11 月、中国企業グループと DR コンゴ国有企業 Gecamines 社との JV 事業 Sicominex 銅・コバルト鉱山プロジェクトを含む 2008 年に締結されたインフラ・鉱山開発事業の契約の見直しが、理想的には 2022 年末までに完了されるべきだと言及した。

### (3) Tenke Fungurume 銅・コバルト鉱山を巡る争い

DR コンゴの裁判所により任命された Tenke Fungurume 銅・コバルト鉱山の臨時管理者は 2022 年 6 月 29 日、CMOC Group に対し生産物の販売と輸出を停止するよう命じた。DR コンゴ政府は、Tenke Fungurume Mining S. A. 社の株式 80% を所有する CMOC 社が、残り 20% を所有する国有鉱山会社 Gecamines 社に支

払うロイヤルティの額を減らすために埋蔵量を過小評価した疑いがあるとしているが、CMOC 社はその疑惑を否定している。

CMOC によれば同鉱山での生産は続いており、同社は DR コンゴの税関と財務省に苦情を申し立てたと述べた。また、CMOC は契約に従い、DR コンゴ鉱山省が承認した経済的に実行可能な埋蔵量のフィージビリティスタディに基づいてロイヤルティを支払うと述べている。

#### (5) 零細採掘コバルトの公社による独占販売を取止めへ

DR コンゴの Antoinette N' Samba Kalambayi 鉱山大臣は 2022 年 5 月、Entreprise Generale du Cobalt (EGC) 社に対し国内で生産される零細コバルトの独占販売を認めるとした政令の取り消しを求めている。EGC 社は零細採掘由来のコバルトを独占的に購入、加工、販売する目的で 2019 年 12 月に設立され、2021 年 3 月 31 日に正式に発足したが、まだコバルト鉱石を購入していない。

### 3. その他トピックス

#### (1) 東アフリカ共同体 (EAC) への加盟

DR コンゴは、2022 年 3 月 29 日に東アフリカ共同体 (EAC) に 7 番目の加盟国として加盟した。DR コンゴは、EAC に加盟することにより、共同体の加盟国間に現在存在する関税同盟と単一共通市場にアクセスできるようになる。これにより、特に重要な港である Mombasa (ケニア) と Dar es Salaam (タンザニア) へのアクセスが改善され、鉱業製品を国境や貿易のために移動させることが容易になる。

(2022. 3. 2 ヨハネスブルグ事務所 栗原 政臣)